

学校評価について（中間評価）

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
 さて、7月にお願いました保護者アンケートにつきましては870名（児童数分）の方から回答をいただきました。これは、児童数の約89%にあたります。学校に対する皆様の関心や期待の高さを感じ、大変ありがたく思っております。同時期に児童、教員にも同様のアンケートを行い、学校評価の自己評価として下表のようにまとめました。結果を十分に吟味し、これからの取り組みに生かしたいと考えております。今後とも学校教育に対するご理解とご協力をお願いしたいと思います。

児童 アン ケート	1年	2年	低学年			
	147人	157人	304人			
	3年	4年	5年	6年	中高学年	総計
	145人	202人	167人	149人	663人	967人

保護者 アン ケート	1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計	
	回答数	136人	143人	131人	183人	139人	138人	870人
	割合	90.1%	91.1%	88.5%	90.6%	80.8%	91.4%	88.7%

領域	学 力 の 定 着 と 向 上															
短期経営目標	基 礎 学 力 の 定 着				向 上				保 護 者			教 員		教 員		
	低学年児童 算数のべんぎょう がよくわかった。	中高学年児童 算数の勉強がよく 分かった。	低学年児童 算数のじゅぎょう で、じぶんのかん がえをかいり発表 したりすることが できた。	中高学年児童 算数の授業で、自 分の考えを書いた り発表したりするこ とができた。	低学年児童 「うしたドリル」や 、「いきいきタイム」の べんぎょうをがんば り、計算する力が ついた。	中高学年児童 「牛田ドリル」や「い いきいきタイム」の活 動をがんばり、計 算する力がついた。	学校は、算数の基 礎学力を定着させ る努力をしている。	「牛田ドリル」や「い いきいきタイム」の活 動により、基礎基 本の定着をめざす ことができている。	算数科では、指導 の工夫により、児 童が自分の考えを 持つことができるよ うになっている。							
A	221人 72.7%	382人 57.8%	177人 58.0%	329人 49.5%	213人 70.1%	429人 64.7%	476人 54.5%	14人 46.7%	3人 9.4%							
B	B1	77人 25.3%	233人 35.2%	109人 35.7%	209人 31.4%	82人 27.0%	175人 26.4%	359人 41.1%	16人 53.3%	24人 75.0%						
	B2	43人 6.5%	105人 15.8%	82人 27.0%	53人 8.0%	38人 4.3%	0人 0.0%	5人 15.6%								
C	6人 2.0%	3人 0.5%	19人 6.2%	22人 3.3%	9人 3.0%	6人 0.9%	1人 0.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%						
評価および今後の取り組み	計算の力については9割以上達成していると思われる。「牛田ドリル」の時間に加え、「いきいきタイム」の時間の活動により、計算の力がついてきていると評価できる。また、どの学年も宿題や課題学習などで工夫して、基礎基本の定着を図っている結果がでていると思われる。自分の考えを書いたり発表したりする力については、授業の方法の工夫・改善をおこない、思考力・表現力が伸びるように書く場面などを意図的に仕組んでいきたい。															

領域	豊 かな 人 間 性 の 育 成														
短期経営目標	明 る い あ い さ つ				き れ い な 学 校										
	低学年児童 「ふれあいの日」を 中心として、あいさ つがよくできるよう がんばった。	中高学年児童 「ふれあいの日」を 中心に、あいさつ がよくできるよう努 力した。	保護者 「ふれあいの日」を 中心に、子どもた ちは、すすんであ いさつをしている。	教員 「ふれあいの日」を 中心に、児童に気 持のいいあいさ つの働きかけを 行った。	低学年児童 「そうじのしかた」ど おりに、そうじが できた。	中高学年児童 「そうじの仕方」ど おりに、そうじが できた。	教員 掃除の手順につい ての指導と掃除後 の確認を行った。								
A	200人 65.8%	428人 64.8%	282人 32.0%	24人 61.5%	227人 74.7%	407人 61.5%	26人 66.7%								
B	B1	88人 28.9%	157人 23.8%	397人 45.1%	12人 30.8%	65人 21.4%	231人 34.9%	11人 28.2%							
	B2	63人 9.5%	187人 21.2%	3人 7.7%	0人 0.0%	18人 2.7%	2人 5.1%								
C	16人 5.3%	13人 2.0%	15人 1.7%	0人 0.0%	12人 3.9%	6人 0.9%	0人 0.0%								
評価および今後の取り組み	児童・教職員の評価が高く、よくがんばっている。校内では今後も教職員が、学級・学年を超えて積極的にあいさつの働きかけを行っていききたい。また、児童会の主体的な取り組みも促していきたい。しかし、保護者の評価は低い。これまでもさまざまな場面で家庭や地域でのあいさつや声かけをお願いしてきたが、これからも家庭や地域でのあいさつを促す学級指導を強めたい。										児童・教職員のいずれの評価も高く、上手に掃除を行っていると言える。今後も毎日の掃除後の反省を確実に行っていきたい。				

	低学年(1.2年)	中高学年(3~6年) 保護者
A	そう思う	あてはまる
B1	B まあまあ	ややあてはまる
B2		あまりあてはまらない
C	そう思わない	まったくあてはまらない

領域	健康・体力づくり														
短期経営目標	授業力の向上						運動の習慣化								
	低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		低学年児童		中高学年児童		教員		
	体育のべんきょうでは、たのしくうんどうすることができた。		体育の時間では、運動することの楽しさを感じることができた。		子どもたちは、学校の体育の授業を楽しみにしている。		体育科では、課題の持たせ方を工夫し、運動の認識に重点をおいた指導を行った。児童は体育の楽しさを感じている。		「きらきらタイム」で自分のながてうんどうをとくにがんばっている。		「きらきらタイム」で自分の苦手な運動を特にながばっている。		「きらきらタイム」で強化種目、に関連した運動を取り入れた。		
A	272人	89.5%	526人	79.6%	550人	63.4%	11人	34.4%	240人	76.7%	389人	58.8%	4学年	57.1%	
B	B1	28人	9.2%	105人	15.9%	247人	28.5%	19人	59.4%	66人	21.1%	199人	30.1%	2学年	28.6%
	B2			24人	3.6%	65人	7.5%	2人	6.3%			61人	9.2%	1学年	14.3%
C	4人	1.3%	6人	0.9%	5人	0.6%	0人	0.0%	7人	2.2%	13人	2.0%	0学年	0.0%	
評価および今後の取り組み	児童の「体育は楽しい」という思いは95.5%～98.7%で、体育の授業や運動をととても楽しみにしていることがわかる。しかし、苦手な運動やできないことがあると体育の時間がいやになる低学年もいる。「できた」という思いを持たせるために、教師は児童の実態に合わせ、課題の持たせ方や指導の工夫を今まで以上に研究して授業に取り組んでいきたい。						児童の「きらきらタイム」の肯定的評価は高く、低学年では97.8%、中高学年では88.9%となっている。今後は「きらきらタイム」で、7月に決定した各学年の強化種目と学校全体の強化種目をに取り組むとともに、そのほかの場面での積極的な声かけや体力だよりなどでの情報発信をしていきたい。								

領域	まちぐるみ教育の推進				学校教育全般						
短期経営目標	かかわり合い										
	保護者		教員		低学年児童		中高学年児童		保護者		
	学校は、学校便り、学年便り等のプリントや、Webページ、安心ネットなどで学校の情報の発信に努めている。		学年便りを毎月発行し、学校のWebページの学年のページを予定通り(2回)更新した。		学校は、楽しい。		学校は、楽しい。		子どもは学校へ行くの楽しみにしている。		
A	581人	66.7%	6学年	85.7%	235人	77.3%	445人	67.1%	616人	70.6%	
B	B1	257人	29.5%	1学年	14.3%	64人	21.1%	171人	25.8%	212人	24.3%
	B2	26人	3.0%	0学年	0.0%			39人	5.9%	37人	4.2%
C	7人	0.8%	0学年	0.0%	5人	1.6%	8人	1.2%	7人	0.8%	
評価および今後の取り組み	保護者から、大変高い評価をいただいている。学校便りや学年便りなどの紙媒体だけでなく、Webや安心ネットなど様々な方法でこれからも正確にわかりやすく情報を発信することを続けていきたい。				昨年度と同様に、児童・保護者ともに9割以上が学校生活に肯定的な評価をしている。「学校が楽しい」の理由も「友達関係」が最も多い。どの児童も楽しく協力し合い活躍できる学級づくりをしていきたい。次に多いのは「学習関係」であった。「わかる」「できる」授業づくりをめざすとともに、友達間で意見や考えを伝え合う学習の場を多く持ち、コミュニケーションの力も高めていきたい。						

	低学年(1.2年)	中高学年(3～6年)
		保護者
A	そう思う	あてはまる
B1	B まあまあ	ややあてはまる
B2		あまりあてはまらない
C	そう思わない	まったくあてはまらない

総務部 教務部
 無回答、または、回答できない項目もあるため、合計人数は項目によって異なります。
 人数の割合は、小数第2位以下を四捨五入して表しました。そのため、合計が100%にならない場合があります。
 学年の合計が7になっている項目があるのは、特別支援学級を1学年としているためです。